

ビジネスを取り巻く環境が激変する中、困難も、解決策も、そして可能性も多様だ。その最先端を、さまざまなテーマ設定から描き出す。

企業の発展には不可欠のこと

女性の戦力化 その現実と未来

File. 11

男女雇用機会均等法(均等法)が1985年に制定されて四半世紀。施行当時、大学卒で社会人になった女性はすでに50歳に近くなるうとしている。男性であれば管理職になつていようが、実際はどうか。「女性社員は大きな戦力」と誇る企業はあるようだが――。

3K職場で女性が力を発揮

原田左智工業所

p48

育児第一社員が会社を変える

マイケイ・グイン・インフォメーション・コミュニティ

p50



女性と仕事研究所・金谷千穂子所長。「男性経営者は『女性にあの仕事をやらせてはかわいそう』と考えがち。そういった先入観をまず捨てるべき」

中小企業こそ先駆者に

「日本の女性管理職比率は8・0%。諸外国と比べるとまだまだ低い数値に止まっている」NPO法人女性と仕事研究所・金谷千穂子所長は、そんな現実を示しつつ、中小企業が誇るべき、ある事実を明かす。「社員数が10〜29人の企業では、女性の管理職比率は19・8%(*1)。実は大企業と比べると倍以上の数値」これは経営者夫人が経営陣に名を連ねることの多い中小企業らしい現象だという。理由はそれだけに止まらない。女性が管理職になりやすい素地があるというのだ。

素地とは規模が小さいこと。それ故、社員一人ひとりに経営者の目が行き届く。「この人は能力がある」と経営者が見込みさえすれば、そこで管理職が誕生するという「スピード」がある。細かな人事考課の末に昇進がなされる大企業では考えにくい状況だろう。

*1 厚生労働省:「平成21年度雇用均等基本調査」より

だ。中小企業は大企業ほど優秀な人材が集まりにくい。そのため性別を問わず登用しなければ、人材が払底しかねない。

金谷氏は言う。

「優秀な人材には能力を発揮してもらおう、そうしなければ損」と、女性を登用する経営者は考えている

経営者夫人のあり方で変わる

一方で、旧来のように、女性社員に男性社員の補助的な仕事しかさせない企業も少なくない。「ウチの女の子」といった呼び方をする経営者

が率いる会社は、その典型であることが多いと言う。

先駆的な企業と立ち離れた企業が混在する中で、女性と仕事研究所では独自の評価の物差しで、中小企業の女性登用の度合いを測ろうとしている。その物差しとは、2009年からスタートさせた「ハッピーキャリア」企業評価事業によるもの。「厚生労働省や自治体などで女性の活用を評価する基準はいくつかあるが、いずれも均等法の指針を上回っているかどうかを見るに過ぎない」(金谷氏)

だが、中小企業の実態に沿った評価を下さなければ意味がない。たとえば男性社員の育児休暇は、慢性的に人材不足の中小企業ではいかにも実施しづらい。そのため金谷氏は評価事業において、女性の活用・登用を中心に捉えるようにしている。この評価事業の中で金谷氏が発見したのは、「経営者夫人の位置づけが、会社における女性の立場に大きく影響する」ということ。

経営者が男性の場合、夫人が経営陣に名を連ねることは珍しくない。そんなケースでも、妻に対し、社内では名字や役職で呼ぶなど公私混同を避け、夫人が、共同経営者として参画している企業は、女性の活躍の場も大きい。

逆に夫人の意見を聞きながらも、「アイツの言うことは聞かなくていいよ」などとあとで経営者が言った

りする場合、女性社員も軽んじられていることが多いと言う。

残業続きの働き方も見直す

今後、中小企業で女性が長く働けるようになるには何が必要なのか。金谷氏は「キャリアアップの作成と残業をなくすこと」と明言する。女性の平均勤続年数を見ると8・6年(*2)。男性が12・8年なのと比較するとやはり短い。その理由は以下のように考えられる。

一般的に、働く女性が仕事を含めた将来のライフプランを真剣に考えるのは大卒であれば勤続5年目、27歳前後まで。結婚・出産という大きな変化を控え、考えざるを得なくなるのだ。入社して5年、その間に責任ある仕事を任せられないままだったらどうか。その上、キャリアアップも示されなかったらどうか。

「会社は自分に期待していない」と感じて不思議はない。結婚・出産を優先し、仕事に復帰するのはその時になったら考えよう――そんな気持ちになる女性を、誰も咎められないだろう。

こうして8年を超えて動めることなく、女性は会社を去っていく。「そうやって欲しくないのであれば、早い段階で会社におけるその女性のキャリアアップを示すべき」と金谷

*2 厚生労働省:「平成21年賃金構造基本統計調査」より

女性の戦力化 その現実と未来

女性を戦力化するにはこうしよう

- 「男女を問わず、実力のある人を登用する」と明言
- 社長夫人は女性の戦力化の試金石と考える
- 女性社員には入社5年までにキャリアプランを示す
- 残業をさせない仕事の仕組みをつくる

Organization Profile

女性と仕事研究所
大阪府大阪市北区堂島浜1-4-17
田中ビル4F
06-6341-3516
http://www.women-work.org/